

74新破天荒



二学期終了の目を迎えました

七十四回生が本校に入学して以来、早や九ヶ月が経過しました。この姫路南高等学校の地で、網干・家島（五十音順）との発展的統合で新生校が立ち上がるまであと七学期が残されるのみです。一日一日を大切に過ごしたいのですが、皆さんにとっての二学期は、どんな四ヶ月だったでしょうか。

十一月下旬から、日本国中はサッカーのワールドカップの話題で熱狂しましたが、兎にも角にも「心打たれる」、「心を一つにする」ことができる出来事であったことには間違いがありません。

本物に触れ

本気でこだわり

自然体で

居続けることの大切さを、私たちは忘れずにいたいものです。

能動と受動 自動と他動

受動・他動とは「させられる」、能動・自動とは「する」、「くである」ことです。例えば、

日々の学習の課題を

「する」 または 「させられる」？

部活動のトレーニングを

「する」 または 「させられる」？

何かに感動を

「する」 または 「させられる」？

前述のワールドカップにおいて、数多くの国民は感動「する」体験をしました。感動するには琴線に触れることが必要で、その琴線と心を繋げて感情を揺れ動かすことが必要です。そして、何かの行動となつて初めて

「感動する」

ことになります。思うだけでは・受け止めるだけでは次に繋がらない。それを感動と呼びません。

勿論、「感動」は成功からしか得られないわけではありません。むしろ、日本人には逆境で見せる底力から、多くの「感動」、「行動」を産みます。

主体的に準備し、冷静に逆境と向かい合ったとき、底力は発生し、人の心を揺り動かします。だからといって、全ての人の心を揺り動かすわけではないのです。

サッカーワールドカップばかりで申し訳ないのですが、少し時を経て様々なシーンを振り返ったとき、

日本選手だけに限らず、闘いに敗れたチームの多くの大人の頬を伝ったものを、あなた達は

「流した」あるいは「流れた」

と感じるか、いま一度考えてください。

シチュエーションが許すこと、勢いが許すこともありですが、「感動」は強い主体性を持った行動から、数多く経験できるものです。あなた達の未来への道の途中で、「使役」ではない行動、挑戦を積み重ねていってください。

そして、次の世代へと、「感動する」場面や空間を伝えていってほしいものです。

あと七学期。七十四回生が多くの感動を生み出し、多くのことに感動することを祈ります。

文理選択希望調査について

二期早々より、新二学年での文理選択希望調査を進めてきましたが、期末考査を前に最終調査をし、期末考査後に決定通知を配布させていただきました。自分の進路に向けて第一歩を踏み出しましたが、選択調査確定数を報告します。

文系 一二八名
理系 七二名

で確定しました。

その結果、新学年では理系は三六名×ニクラス、文系は四三名×ニクラス、四二名×一クラス編成となります。

まずは一報をお知らせします。

薬物乱用防止講演会

十二月の声とともに

に、季節が本来の冬に追いついて来ました。

そんな中、期末考査が明けた十二月十二日月曜日の四時間目に、本校体育館において、兵庫県警察本部少年課

姫路南少年サポートセンター所長である西岡香織様をお迎えして、七十四回生に向けて、薬物乱用防止講演会が開催されました。

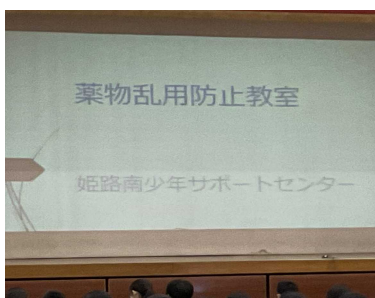
幼少期のたばこ、飲酒の経験者が薬物常用者となるケースが非常に多いこと、断ち切れないのは違法薬物以上に、「仲間」を装う者達との関係であることを感じました。DVD映像の視聴が嫌だった生徒もあつたと思います。絶対に過ちを犯すことのないようにを促すために、刺激のあるものに触れさせられたと考え、自分を律してください。

生徒を代表して、一組の住本渉君が謝辞を述べました。

以下に記します。

「自分達にとって、あまり馴染みがない話だと思っただけですが、今日の話を聞いて身近に起こっている話だと分かりました。

だからこそ、自分や周りの人を傷つけないために、今日学んだことを意識して生活をしていこうと思います。ありがとうございました。」



夏季休業中読書感想文
優秀作品

「多様性という共通課題」

多様性という言葉の意味をこんなにも深く考えたことはあっただろうか。近年、多様性という言葉をよく耳にするようになった。私の認識では、「差別のない、平和な世界を作ろう」という、ただ漠然としたものだった。しかし、この本を読んでからこの認識に恥ずかしさを覚え、それと同時に今私にできることは何かを考えた。

筆者はイギリスに住んでおり、その息子である「ぼく」は学校や町で様々な体験をする。彼の学校では、人種も貧富の差も違う生徒が通っており、そこでは様々な問題がたくさん起こった。そのたびに筆者と「ぼく」はなぜ問題が起こったのか、解決策はないのかを話し合っていた。

その会話の中で印象に残っている言葉がある。「多様性ってやつは物事をややこしくするし、喧嘩や衝突が絶えないし、そりゃないほうが楽よ」これは筆者が「ぼく」に言った言葉だった。私ははじめこの言葉が理解できなかった。多様性がないほうが楽だということであれば、なぜ多様性というものがあろうか。筆者は続けてこう言った。「多様性は、うんざりするほど大変だし、めんどくさいけど、無知を減らすからいいことなんだと母ちゃんは思う」ここで私は納得できた。無知でなければ、相手の言っている本当の意味を捉えることができ、差別や偏見が起りにくくなると思った。しかし、ここで間違えてはいけないことがある。それは、無知であることイコール頭が悪いわけではないということだ。無知であることは、一つの世界しか知らないからだと私は思っている。他の世界を知れば、それは無知ではなくなり、多様性という全ての人々の共通課題がこなせると思っ

もう一つ印象に残っている言葉がある。それは、「どうしてどっちかじゃないといけないですかね？」という質問だった。これは「ぼく」が通う学校の校長先生が筆者に言った言葉だ。確かに、なぜ人々は一つにまとめようとするのか疑問を持った。どちらかに固まることで大きな集団になり、仲間意識や安心感が生まれるかもしれない。勿論、一つ一つまとまることも大事だとは思うが、何でもかんでも強制してしまうと不満が高まるばかりであり、逆に対立が起る原因になる。だから、「絶対にどちら側にはつかなければならぬ」という考え方は控えるようにし、自分の本心に向かって耳を傾けながら物事を決めていきたいと思った。

この本のタイトルである、「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」は、「ぼく」が書いた言葉だった。イエローは黄色人種、ホワイトは白人という意味だと私は解釈している。彼は日本人とアイルランド人のルーツで生まれたからイエローでホワイト。だとしたら、ブルーは何だろうか。私の解釈だと、ブルーは悲しい気持ちや暗い気持ちを表す色だと思っている。もしかすると、たくさんの差別を受けて心が弱っているかもしれない。もしかすると、怒っているのかもしれない。彼の気持ちは述べられていないので、これ以上のことはわからないが、彼は、「いまはどっちかっていうとグリーン」と言っていた。グリーンには、未熟、経験が足りないという意味がある。ブルーという感情だった時に経験できなかったことをたくさん経験し、様々なものに触れてきたからこそ言える言葉ではないだろうか。そして、その色は段々と変化し、これからは変わり続け、人生に刻まれると私は思う。

この世の中、多様な生きられたい。今回学んだことを日頃から意識していきたい。差別や偏見がなくなる世の中にしていきたいと思った。そんな多様性の重要性を知った私は、まだまだグリーンなのだと思う。

書名

「僕はイエローでホワイトで、ちょっとブルー」

三組 蘆田 百香

「私の人生」

「一日の価値」について考えたことはありますか。毎日普通に生きていく健康な人と、重い病気を患った余命一年の人とでは一日の価値はどう変わるのか。私は疑問に思ったことすらありませんでした。ですが余命一年の人は普通の人より毎日を充実させたものにするために努力していて、色んな場所に行ったり色んなものを見たり、自分のしたいことをしているイメージがありました。しかし、そんな私の考えを変えてくれるような小説に出会いました。「君の臍臓をたべたい」。初めはこの題名がどういう意味なのか全く理解できませんでしたが、「臍臓をたべたい」という非現実的な表現に対し、私は何も想像できるものがありませんでした。しかし読み始めると、臍臓の病気を患い、余命一年の桜良と桜良の性格とは対照的なクラスメイトの春樹との充実した日々が描かれていました。やはり私のイメージは確かです、余命一年の人は自分のやりたいことをしているのだなと思いました。そこで桜良が放った言葉が私の心に残りました。「偶然でもない、流されてもいない。私達はみんな、自分で選んでここに来たの。」この言葉を聞いて、私は気がつきました。自分は一日の寝る、起きる、歩くという小さな選択を重ねてここまで来たのだと。今、私の家族や友達も私の選択と相手の選択が、「出会い」を導いたのだと気がつきました。私は今まで人と出会うのは偶然だと思っていました。恐らく多くの人がそう思っていると思います。でも出会いとは偶然ではなく、必然的に起こるものなのだと教えてくれるような言葉でした。そして私にはもう一つ心に残った言葉があります。それは、「君こそやりたいことしなくていいの？もしかしたら明日突然君が先に死ぬかもしれないの。」という言葉です。人生において明日、極端に言うところ後、自分が確実に生きていられるという保証なんてどこにもありません。しかし、確実にいつかは死ぬという保証はあります。人生の中で唯一約束される事は「死ぬ」という事だけなのです。よく考えてみると、いつ訪れるか分からない死に怯えず、幸せに生きていく人間は、いかに愚かでもなく、でも強く

まっすぐなのだと気づかされます。人生どんなことがあるのか、良い意味でも悪い意味でも運命を約束されている事なんてないのに、私たちが人間は誰かや自分のために一生懸命働いて生きていこうとしたり、人に流されても、自分の意思を貫いても、結局その選択で変わるものは自分の人生だと間接的ですが、教えてくれるような桜良の言葉でした。そして私がこの小説で一番学んだ事は、毎日を普通に生きていく健康な人と重い病気を患った余命一年の人の一日の価値は同じなのだと。言う事です。結局桜良は臍臓の病気ではない亡くなり方をします。もしかしたら、その立場が自分だったかもしれない。余命一年の人は、一日や一秒がどれだけ大切なものかしっかりと分かっているから自分のやりたい事をやってみたり、「死」について前向きなのだと思いました。短命でも長命でも「人生」という限られた時間の中で、いかに幸せに生きるか一人の人間として問われたし、難しく、大きな責任が伴う「選択」の重みや、「いつかは命を絶つ」という現実には怯えず、逃げない事の大切さを知りました。私は恵まれた環境に生まれてきて、「出会い」、命の大切さや重みを当たり前だと思っていたのだと痛いほど感じました。この小説を読んだ私は、読む前の私より強くなっている気がします。なぜなら、この世界に生まれてきて、大切な人に出会えた事のありがたみをほんの一部ですが、知ることができたからです。これからは大切な命をどう生きるのか、選択一つ一つに責任を持ち「私の人生」を歩みます。不運な環境や周りの人のせいにはせず、幸運な環境や周りの人のおかげにし、未来の自分が笑顔で手を振ってくれるような人になりたいです。そして自分と対照的な人の事も認めてあげられるような心の広い人になりたいです。でもきつと無理に認める必要なんてないので、誰に何と言われようが、心が狭くても自分の意思を貫ける強い人になりたいです。この小説を通して私は、どんなに格好悪くても大切なものを守ることができ、怖い事から逃げない、正しき幸せになれる人生を歩みたいと思いました。

書名 「君の臍臓をたべたい」

一組 八十 明咲

「猫と私」

私は物心がついた頃から大の猫好きであった。小さな頃によく言っていたことは「宝くじが当たったら猫を飼ってもらおうの。」で母はママ友に「あんなに猫を欲しがっているんだから買ってあげれば？」とよく言われていたそう。今は大切な友達であり家族のみなかと一緒に暮らしているの言いませんが、猫は私の人生の中で最大の神様からの贈り物である事は間違いない。猫の何がそんなに私の心を惹きつけたのか。ただ単純に可愛いビジュアルに心を奪われたのか又は友達に飼っていたから羨ましかったのか。ともかく私の中で猫という生き物はずっと今でも大きな関心を占めている。何を考えているのか何に興味があるのか何がしたいのか部活のない日などは彼女を一日中見ていられるほどである。そんな私がこの夏書店で出会った、いや目があつたのが「猫に学ぶ、いかに良く生きるか」

猫好きなら間違いなく手に取る事考えた表紙にまんまと誘われて読んでみようと思ひ始めました。読み始めて文章の難解さに脳をフルで働かせながら休み休み読み終えました。一言で感想を言うとこの本自体は私には理解しにくい部分の多い哲学書でありました。ですが、所々に猫の物語や猫と生活を共にし私のように猫に魅了された先人や偉人のエピソードが紹介されてそれに対する作者の考え解の部分は今現在猫と生活を共にしている私に理解したり共感できる部分が多々あり楽しく読む事ができました。特に猫が人と生活を始めた歴史の部分はただ面白かった。短い文章一つ一つに激しく同意しうんうんと納得しました。何故このように感じたか、それは猫と人との生き方の違いを難解極まりない哲学の部分が先に紹介しているから。哲学と猫の雑学で成り立っているから面白かったのでしょう。と言う事は少しはわたしもこの小難しい哲学部分の端っこでも理解できていたと言う事でしょうか。

人は人生にその意味や物語を求める。未来を想像し、人間性を大切に、常に先の死に対して恐怖心を持ち、それから逃れるために

宗教や哲学を生み出した。ところが猫という生き物は意味も物語も求めず未来も想像しない。今をただ生きていく。本性で生き自由に今に満足して何も起さない平凡な日々を孤独に楽しんでいる。自分の生きていく猫生以上何も求めない。だからその生き様に人は猫を見て羨ましいと思ひ魅力を感じる。このあたりが私が読み取れた部分である。私を感じていた猫への感情の表現しきれないところに光が射したように感じました。猫の横顔の大きなガラス玉のようなレジン液のような輝きを持つ目を見る時可愛いという感情より別次元に吸い込まれるような恐怖心を含んだこれ以上ない尊いものに出会った感覚を私を感じるのにはやはり自分達人とは違う人が憧れてやまない生き方を持つて今を生きていくのに対して知らず知らず引け目を感じているからだろうか。

猫が人間に手なづけられたことはない。猫は人間もどきにならなかった。極寒のシベリア強制収容所で人は急速に人間性を失ったが猫は猫である事をやめなかった。猫は捕獲者として、密航者としてあるいは偶然の旅行者として世界各地へと船出していった。愛猫家は猫の中に自分を見出すから猫を愛するのでなく、猫が自分とあまりに違うから愛するのだなど、沢山の素晴らしいエピソードが紹介されていて他にも猫の生き方に感動したり手本にしたい宝物のような文章がいくつかありました。そしてこの本から私が取ったメッセージは人は人として生きていく上で人間世界以外の何かを必要とする。その何かが無いと狂ってしまう生き物である。人の生き方は変わらないけれど猫のようにありもしない現実に振り回されず今この瞬間を良い方向に進む猫の生き方を知り取り入れて学ぼう。心に留めておこう。そうすれば人生で少ししんどの時晴らしになりますよ。

本の最後にいかに良く生きるかについて猫がくれる十のヒントが載っています。その中で三つ気に入ったものがあります。

- ・ 時間が足りないと思くのは馬鹿げている。
- ・ 闇を恐れるな。大事なものの多くは夜に見つかる
- ・ 眠る喜びのために眠れ

今日も晴れて気温も高く不快指数はMAXですが、私の部屋のクーラーも当たりすぎず日差しも当たらないベストな位置を選んで、ゆっくりくつろいでいます。時折部屋を出てどこかで何かをして戻り、またゆっくりくつろいでいます。本当に羨ましい生き方です。この本を読んで彼女が今この瞬間ダラダラしてただに見えますが自分の生きたいように大切に生きていく事を知ることができました。

書名 「猫に学ぶ いかに良く生きるか」
五組 福本 紅

図書だより

皆にとつて

今年の一字は何でしょう？

さあ、書いてみよう！



散歩道 74 クラスコード 51uczkw
Start 23 → Nov +3 (26)
→ Dec +5 (31) Now 31

- 四 日(水) 仕事始め
- 九 日(月) 成人の日
- 十日(火) 始業式
- 十一日(水) 課題考査 (午前中で放課)
- 十一日(水) 課題考査 (時間割は課題一覧で確認)
- 十二日(木) 進路希望調査
- 十四日(土) ~ 十五日(日) 大学入試共通テスト (二年後はみんなの番だ！)
- 十六日(月) ~ 三年午前中授業
- 十七日(火) 教育相談
- 二十日(金) 総合学力テスト

今月の勧め

五月	「無駄」
六月	「諦めない」
七月	「捨てる」
一学期末	「チャレンジ」
九月	「さかのぼる」
十月	「テレビ」
十一月	「大空間」
十二月	「無」
二学期末	「こだわり」

かつて、校務分掌で図書関係の仕事をしたことがあります。そのとき、購入して欲しい本を図書委員を通じて調査をした結果、最も希望が多かったのはファッション雑誌でした。やはり年頃の高校生達にとつて流行に敏感であることは、いつの時代も生徒達が「こだわる」部分なのかもしれません。最近も修学旅行などで私服姿を見ることも多くなりましたが、本当に最先端ファッションを身に纏った集団ができあがるのかもしれない。

同様に、高校生活の先の自らの進路に対し、「こだわり」を考えてみましょう。医療系、看護系、技術系を問わず、資格取得志向の強い受験には『面接・小論文』を課される場合が多いです。そんな受験生の面接練習をして感じる共通点は、「真面目、一生懸命、まとめてきた回答を思い出そう」とする姿です。そういった姿に、ほのぼのしたものを感じる反面、

そこに「何でなりたいたい？何を学びたいの？どうなりたいの？何故ここなの？」を感じる事ができる人になかなか出会えません。何故なのでしょう。例えば、医療・看護系希望者対象の月刊誌が存在

することを、医療看護系希望者は知っていますか？工学系雑誌には、知識だけでなく実際にミニチュアの製作（これがなかなかマニアックなほど細部へのこだわりがすごい）できるものが山ほどあることを知っていますか？パソコン、スマホに関する雑誌は、週刊・月刊誌がどれほどあるか・・・。

ファッション雑誌と天秤にはなかなか掛けることはできませんが、本気で目指すならば「是非」一度、手にして自分のものにして下さい。

こんな生徒がいました。起立性調節障害を持っていた生徒で、一年次には二十日強の欠席がありました。が、看護師になることを強く希望していました。通常であれば、誰が考えてもその道は厳しいどころか無理と思うでしょうが、彼女は欠席日数の事実を挽回するために、体調の回復は勿論ですが、月刊誌を通じて「いま」の医療現場の現状を知ること、

「こうありたい」自分を構築し、受験までにお母様と、月刊誌の記事等も利用して、数多くのゼミに参加し、知識と想いを積み重ねることに励みました。不思議なもので、目的意識を持って行動するようになる

になると、びつくりするほど積極的になり、欠席も二年次には五日、三年次にはついに皆勤という成果とともに、兵庫県立大学看護学部（一般）受験に臨むことができました。模擬試験ではB判定に到達し始めましたが、センター試験後の判定はCに近いD判定でした。どうするかと思いましたが、看護に対して構築してきた「こうありたい、こうなりたい自分

をしつかりと見てもらう」と受験に臨みました。結果は見事に合格。一年生の姿から、この結果を想像することは大変困難です。そこには、彼女の「看護への想い・執念・こだわり」の積み重ねが成した業だと思えます。

全てが成功に結びつくわけではないですが、深い自分を見ることができれば、知って欲しい自分を見てもらえると思えます。

「こだわり」始めてみませんか。

大学との連携事業

期末考查最終日の七日に、神戸大学留学生との交流会が神戸大学で行われ、一年生にも参加の機会が与えられ、七名の生徒が参加しました。

初めての機会に、引率の先生からは「たくさんなんちゃって英会話さんが登場していたようですが、参加して分かった英語表現力向上の必要性を身につけるべく、その決意に応える姿を授業で期待します。

また、翌週の十六日には、岡山大学訪問（希望者）が実施され、これにも一年生に参加の機会が与えられました。三十名を超える意欲的な生徒に恵まれた結果、逆に参加希望者全員が参加できず、そのことについては申し訳なく思います。学年として、その意欲的な姿勢を消さないよう、今後も皆さんの成長に寄り添います。残念ながら、今回は参加が叶わなかった生徒の皆さんは、来年もこの行事はあるので、その機会まで自分の気持ちを切らず、必ず参加を達成してもらいたいと思います。

保護者の皆さんへ。学年の進路調べ活動として、十一月のロングホームルームで、現在自分の目指すものとして、「何を、どうして、どこを」目指すかを確認して、その進路先調べを行いました。また、冬休み課題として、今回は「国公立大学を知ろう」ということで、「行きたい、行きたくない」ではなく、「こんなところどう？」を七十四回生として、情報を共有する目標で、県外の大学を調べ、チラシにしてコマージュしてもらうことを課しました。

誤解なきよう。国公立が全てではないのですが、二年先に向けて、まずは国公立から、しかも「今」は未知の世界であるものを知ることが目標とします。私立大学、専門学校なども、調べ学習の機会を設ける予定です。お知りおきを。

兎にも角にも

一区切りがつくタイミングですから、しっかりと休み、切り替えを大切にして下さい。各教科とも、早め早めに冬休みの課題を提供しています。中には、冬休みに入る前に終わらせている人も七十四回生にはおられます。

今後、各休業中課題は

各休業後提出課題

と捉えらると、課題が作業ではなく、課題提供の意味である

自分磨き

となります。

一つの終わりは、次への始まりです。振り返りとは決して反省ばかりではない。自分磨きのためにも、「今日」という日を大切に、今学期をひとまず終えよう。そして、次に向かって羽ばたくための準備をして、新たな年を、その時間を共有しよう。とは、先日鑑賞した「ラーゲリより愛を込めて」の多少受け売りですが、私自身その日一日の最後には「今日」を振り返る生活をしようと思えます。

どうぞ皆さん。良いお年を